

月刊

# 書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No 6 4～

平成31年



編集長 渡邊 啓子

一般社団法人日本書字文化協会  
代表理事・会長 大平恵理

〒164-0001 中野区中野 2-11-6-301 丸由ビル

電話 03-6304-8212 FAX 03-6304-8213

Eメール info@syobunkyo.org



## 目次 (全8ページ、ウェブ版 ページ)

- ◇第4回書文協臨書展に参加しましょう・・・・・・・・・・ 2
- ◇コラム「こころ 駅伝の美学」大平恵理・協会長・・・・・・・・ 4
- ◇新年は冬季特訓で幕開け・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ◇第7回総合大会入賞者コメント特集・・・・・・・・・・ 6
- ◇コラム「東西南北」大阪教育大学4年、阿部智恵・・・・ 12

ホームページ大会結果欄で「第7回総合大会」の結果掲載が始まりました。フロントページ横タスクバーの「大会」にカーソルを当てると項目欄が出るので「結果発表」をクリックしてください。

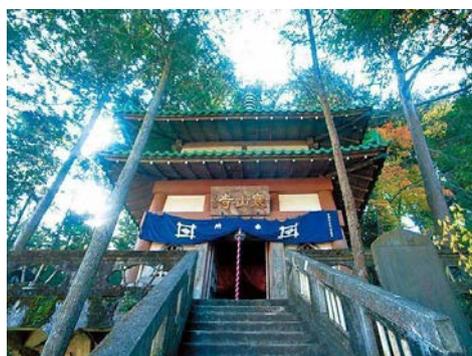
# 書文協臨書展に参加しましょう

名跡や名筆と呼ばれる手本を傍らに置いて、これをよく見て写す学びを臨書と言います。手本から、字形、筆勢、用筆の技法を学び取る大事な方法で、学校では高校書道で習います。書文協では、多くの人に早くから臨書に触れていただきたくて、毎年度の最後に臨書展を開いています。今回で4回目を迎え、さらに参加しやすくしました（次ページに実施要項）。参加は年齢不問です。奮ってご応募ください。以下は、書文協臨書展の特色です。

## ①東京・多摩川上流の溪谷を舞台に漢詩の心をつかむ

高校教科書で臨書教材として取り上げられているものなら自由に選んで応募できますが、臨書の常設課題として漢詩「楓橋夜泊（ふうきょうやはく）」を選ぶこともできます。

この漢詩は中唐の詩人・張継が詠んだもので、中国・寒山寺に漢詩を書いた石碑、鐘つき堂があります。多摩川上流の鶉の瀬溪谷には地元有志によって無住の日本寒山寺（写真）が建てられ、石碑や鐘つき堂も置かれています。多摩川の川面を流れる鐘の音は、張継が聞いた「姑蘇城外寒山寺」からの「夜半の鐘声」を思わせるでしょう。



## ②「楓橋夜泊」から10文字、楷書書写の部があります

七言絶句の「楓橋夜泊」の全漢字28文字は、全て現代の日本でも使われている漢字ばかりです。中国の漢詩・漢文では、何文字かは日本でなじみのないものがふくまれるケースが多く、同詩は希なケースです。この内日本教育漢字に含まれている10漢字を、大平恵理・書文協会長が手本を揮毫しました。

小学生も臨書に触れるきっかけになればと期待しています。

## ごあいさつ 臨書展実行委員長、渡邊啓子（書文協・副会長）



昨年は日中友好和平条約締結40周年で様々な催しがあり、色々な形で参加させていただきました。訪日された学生さんたちとの交流や東京銀座で開催された先生方の作品展で多くの作品を拝見しました。お話を拝聴する中でも古典の大切さが語られています。その様な中で、中国では幼少の頃から古典に取り組まれるように、日本の学生さんにも文字の歴史に触れてほしいと改めて思いました。知識や表現など世界を広げる助力になればと思います。

# 第4回臨書展実施要項

2019・3・15日（金）締め切り

**主催** 一般社団法人日本書字文化協会  
**後援（予定）** 東京都青梅市日本中国友好協会、中国書法学院  
国際芸術家連盟、NPO 法人日中文化交流促進会  
蘇州・寒山寺、中国国立南京芸術学院日本校、蘇州呉昌碩研究会

**応募資格** 全部門とも年齢不問

**募集部門（各部門の年齢制限はありません）**

- ◆臨書の部（1） 高校教科書掲載の臨書教材から4文字以上
- ◆臨書の部（2） 常設課題 張継作 漢詩「楓橋夜泊」の起承転結の1句以上

月 落 烏 啼 霜 滿 天  
江 楓 漁 火 對 愁 眠  
姑 蘇 城 外 寒 山 寺  
夜 半 鐘 聲 到 客 船

- ◆楷書書写の部 半紙ないし八ツ切

1～3文字のうちどれかを選ぶ。

- ・1字 次のうちどれか1文字  
月 滿 天 漁 火 城 外
- ・2字 漁火
- ・3字 寒山寺



**審査員** 加藤東陽（書文協中央審査委員会委員長）、加藤泰弘（東京学芸大教授）、  
豊口和士（文教大学教授、文科省教科調査官）

**賞** 大賞（臨書の部1・2から）、日本書字文化協会会長賞  
青梅市日中友好協会会長賞、日中文化交流促進会理事長賞  
優秀賞

**出品料** 臨書の部は1点1,080円（幼児・小中学生は756円）  
楷書書写の部 同756円（幼児・小中学生は540円）  
個人出品は一律1点1,620円

**手本** 指定課題の部は漢詩・楓橋夜泊の拓本をA3判に複写したものを、楷書書  
写字の部の手本（大平恵理揮毫）はA4判で計9枚。手本はいずれも1枚  
当たりA4判100円、A3判200円。希望者は送料100円を加えた相当額分  
の切手を添えて、書文協本部臨書展係りに申し込んでください。

**発表** 月刊書字文化5月号に掲載。団体・個人には賞状・副賞の発送にて発表に  
かえさせていただきます。優秀作品展示会 5月下旬 東京都青梅市沢井  
、澤乃井ガーデンギャラリー。東京・中野ゼロホールでの展示も検討中。

## 駅伝の美学



スポ根ものは根性が目的となってしまうのはあまり好きではありません。月間書字文化今月号の特集のタイトルにもなっていますが「涙を振り払い」的なことも同じです。確かに、途中の在り様はそれでも「最終的には楽しくやりたいな」と思います。やるだけやったら結果にこだわらない、というのが私のモットーです。

そう思うので、正月の人気スポーツイベント・箱根駅伝もあまり見ていませんでしたが、今年はかなりよく見ました。母校の大東文化大学が1区で事故に遭い、最下位を走っているのが気になったこともあって、しばしばテレビ画面を眺めました。そして感じたのは、駅伝というスポーツレースの“途中経過の精神性・美しさ”でした。

一本のタスキをつなぐために最善の努力をする…駅伝の心はそこに集約されるような気がします。勝敗はその後についてくる…。ハイライトの山登りも含め、二日間に渡る長距離を分け持ってひたすら走る選手たちの表情には、勝敗を越えたもの、言わば「自分がひたすら走れば、やるだけやったら最終的勝敗にはこだわらない」というさわやかな気分が浮かんでいるように思いました。

“途中経過の美”は、こちらの勝手な思い込みかもしれません。「途中経過に美はあるの？」と思われる方がいるかもしれません。私は「あります」と答えたいと思います。

どうしても大会の勝敗にこだわってしまいがちな書写書道の学びを、自分が本当に輝くための学びにしたい、といつも思っています。優勝カップを手にする事だけが美しいではありません。ひたむきに学ぶ皆を教えていて、勝敗を超えた“途中経過”の心の豊かさを大事に持ち続けさせたい、と思うことしきりです。

# 新年は冬季特訓で幕開け

## 1/4 中野ゼロホールで

平成31年（2019年）の書文協は、東京都中野区の中野ゼロホールで開いた冬季講習会（特訓）でスタートしました。遠く大阪から駆け付けた仲間を含め、会場の学習室1に終結したのは園児から大学生まで30人。午前10時～午後7時半まで4コマ（各コマ120分）が行われ、大平恵理・書文協会長、渡邊啓子・副会長、池田圭子・教学参与が指導にあたりました。渡邊副会長は、午前は青梅教室での冬季特訓指導を済ませての連続指導でした。

この日、主に行われたのは半切指導。大きな画仙紙に大きく書くことに参加者は目を輝かせ、清しい墨液の香が満ちました。

翌日5日の日本武道館第55回全日本書初め大展览会席書の部に出場する人は同大会指定課題を、そうでない人は第7回全国書写書道伝統文化大会学生書き初め展覧会の指定課題「力耕不吾欺」（中3、行書）などに取り組みました。

書文協では、他団体主催コンクールでは唯一日本武道館書道大会を推奨しており、武道館公募の部（自由課題）には、広く力を試すため書文協指定課題で応募するよう指導しています。（ブログ書文協外史1/16付け参照）

## 硬筆行書検定テキストの販売中止

検定制度改革に伴い、硬筆行書検定テキストの販売を2019年3月末で中止いたします。硬筆行書検定試験は今後、すでに同検定を実施している教場のみ継続することができますが、新しいテキストの販売は中止となるものです。実施教場は、現在のテキストの複写使用を許諾します。

なお、在庫の限りとなりますが、販売受付を2月末まで受け付けます。お送りするのは概ね1ヶ月後となりますのでご承知おきください。



# 字を書くことがとても好き！ 涙を振り払い練習に励んだ！

## ～総合大会で栄冠を掴んだ人たちの言葉～

第7回全国書写書道総合大会で文部科学大臣賞、大賞に輝いた11人の感想を特集します。11人のコメントはすでに書文協ホームページの大会結果欄で発表されています（書文協ホームページ横タスクバーの右から二つ目「大会」にカーソルを当てると7つの項目がスクロール表示されますので、その中の「結果発表」をクリック）。そのエッセンスを採録しました。

受賞者の多くが、字を書くことがとても好き、心が落ち着く、と述べています。まさに「好きこそものの上手なれ」ですね。一方で、まだ小さい子供も多い受賞者のコメントに「涙」「迷い」という文字が再三出て来るのに驚きました。お稽古事はやはり大変なのですね。涙を振り払いながら、迷いながら、周囲の仲間と切磋琢磨しながら栄冠をつかんだ姿がよく分かります。皆さんの学びの参考にしてください。（編集部から：コメントは300字以内に短く編集しました。11人の方はご了承ください）。

## 【第7回全国書写書道総合大会総合の部】

### <文部科学大臣賞>

□新潟県・新潟大学教育学部附属長岡中学校3年 植木 萌心

#### 祖父の入院を乗り越えて中学最後の夏に挑んだ

思いがけぬ祖父の入院があり、過去最低の練習時間になってしまいました。一度は出品を諦めようと思ったのですが、講習会に参加したことを機に、先生方の熱い指導に触れ、私もできる限り練習に取り組もうと覚悟を決めました。

迷いがふっきたお陰で、毛筆は、一発本番の席書で思いのほか集中できたことで、仕上がりには少し自信がありました。硬筆も、短時間の練習でも、これだけの文字が書けたということが今後の自信に繋がりました。同時に、これも普段からの練習が身に付いている証拠だと感じ、嬉しく思いました。

## 【平成 30 年度ひらがな・かきかたコンクール】

### <文部科学大臣賞>

□ たきのい幼稚園 年長 花村 羽琉

#### いっぱいれんしゅうしてもっとじょうずになりたい！

娘も「うれしいです。こんかいはびっくりしました！」と言っております。

年中からえんぴつ教室でお世話になっておりますが、習い始めたばかりの頃はえんぴつの握り方がなかなか直らず、字が不安定で筆圧も今と比べるととても弱いものでした。何より毎週えんぴつ教室に行く事を楽しみにしており、ほとんど休むことなく今日まで来ております。毎回帰ってくるとその日に練習してきたテキストを見せながら「今日はこうだった」と楽しそうに話してくれる姿を見る事は、親としても嬉しい限りです。

本人も「いっぱいれんしゅうしてもっとじょうずになりたい！」と言っておりますので、これからも応援していきたいと思っております。(保護者書)

□ 大阪府・吹田市立岸部第二小学校 3年 米田 琴音

#### 字を書くことが楽しくて好き

私は字を書くことが楽しくて好きです。漢字よりも、ひらがなの方が好きです。はじめて大さかこうしゅう会にさんかして、とてもきんちょうしたけど、いっぱい書けてよかったです。とくに「つ」がうまくなったと思います。

作品では「まつり」の「ま」と、「でかけます」の「ま」が二つあるので、形と大きさをそろえることがむずかしかったです。「か」も二つ出てくるけど、今まで練習したことがあるので「ま」よりは自しんがありました。

でも、東京での作品てんで、わたしの作品を見て、もっとかう書けばよかったなと思う文字がありました。今は、学校の漢字ノートを花丸でいっぱいにするのをがんばっています。

### <大賞>

□ 千葉県・船橋市立田喜野井小学校 1年 池田 翔琉

#### 頑張って繰り返し練習した

年中からえんぴつ教室を続けてきて、その中でも一番大きな賞が取れて、とても嬉しいです。

頑張ったところは、繰り返し練習をしたところです。形が分からない時は、必ず確認をして練習をするようにしました。清書では、練習してきた事を思い出して、思い切って大きく書きました。

これから頑張るところは、学校で急いで書く事が多く、文字が汚くなってしまうので、急いで書いても綺麗な文字になるように、練習する事です。

これからも、先生に教えてもらいながら、綺麗な文字を書いていきたいです。

また、賞が取れるように頑張っていこうと思います。

## 【平成 30 年度全国学生書写書道展】

### ＜文部科学大臣賞＞

□東京都・青梅市立第二小学校 4年 関口 美夢

#### 美夢のスケジュールは大変だ!!

学校や習い事で時間がない時には、えん筆でメモ用紙に書いてみたり、私なりに時間を作りました。毎日、毎日、時間におわれ「もー!!」と思いつつ、最大げんの努力をしてみようと思い、一生けん命がんばりました。

上手いかず、うなったり、ぐでーんとなったり、なみだがポロポロと出る日もありました。手足も赤く、いたくなり、「いたい、いたい」と言うと、最後の日には、先生に「ここまでがんばってきたのに最後がんばらないでどうするの」と言われました。自分でも決めた目標「かぎられた時間の中でも最大げんの努力をしてみよう」を思い出し、書き出しました。この気持ちがあるから、私は他の事もがんばれると感じました。

□大阪府立懐風館高等学校 3年 橋爪 綾音

#### 書道が大好きだから挫折乗り越えた

小学二年生の時に麗鳳書院に通い始め、六年生からは半切コースにも席を置きました。麗鳳書院では半切コースに入会したのが遅いということもあり、伸び悩み挫折しかけたこともありました。それでも書道が大好きで、やめたくない気持ちの方が勝ちました。共に教室の仲間と切磋琢磨して書道に取り組む時間は、今では楽しい時間です。

この賞を受賞でき、改めて感じたことは継続することの大切さです。周りの人に支

えられ好きなことをできる幸せと喜びを噛みしめながら、今後も粘り強く諦めず、書に励んでいきたいです。本当にありがとうございました。

## <大賞>

□大阪府・羽曳野市立西浦東小学校 6年 田中 美咲

### **バランスが難しかったが書けるまで稽古した**

この作品は、バランスがとてもむずかしく。特に「文」という字が苦手でした。ですが、先生方が分かり易くていねいに書き方とバランスの取り方を教えて下さったので書ききることができたと思います。席書の最後はお手本を見ずに書いたのですが、きちんと書けているか分かりませんでした。こうして大賞という賞を頂けたのは、しっかりお手本を見なくてもうまく書けるまでおけい古したからだと思います。

お習字を続けさせてくれている両親に感謝しています。この賞をはげみに、もっとお習字をがんばって、今まで以上におけい古に専念して、もっともっと上達し、夢の文部科学大臣賞を受賞したいです。

□愛知県・刈谷市立東中学校 1年 水野 由理

### **「努力は必ず報われる」先生の言葉で再起**

私が書写を始めたのは、小学一年生の時です。先輩方の作品に少しでも追いつこうと練習をしていました。そして特別賞が頂けるようになりましたが、思うような作品が書けず自信を無くしてしまいました。でもそんな時に「努力したら必ず報われる」と先生がおっしゃった一言で「報われる努力をしよう」と、強く心に誓い、練習を始めました。

そしてこの賞の受賞で、より自信をもつことができました。

今回の受賞は、私を後押ししてくださった先生や、いつも応援してくれた家族、一緒に練習してきた教室の仲間たちの存在があったからこそだと思います。今は、溢れるほどの感謝の気持ちで一杯です。

## **【平成 30 年度全国硬筆コンクール】**

## <文部科学大臣賞>

□埼玉県・草加市立八塚小学校 5年 倉田 光瑠

### **社寺で御朱印を書く人になるよ**

私は五歳の時から書写を習い始めました。最初は、お手本そっくりに書くことがむずかしかったけれど、たくさん練習して、だいぶお手本に近い字を書くことができるようになりました。

二年生の時に、全国硬筆コンクールで初めて大賞を頂き、とてもうれしかったのを覚えています。それ以来、来年ももっとがんばりたい、と思うようになり、字の形だけでなく、線質や字のバランスなどいろいろな事に気をつけながら、自分らしい字が書けるように努力しています。

私は将来、お寺や神社で御朱印を書く人になりたい、と思っています。みんなに感動してもらえるような字を書くことができるように、これからもがんばります。

□神奈川県・森村学園高等部3年 原 もも乃

### 書道を一生の自分の特技にしたい

わたしは学業と書道を両立させることには、大変努力が必要でした。

私が書道と出会ったのは小学1年の頃で、小学校での書写コンクールにて教育特別奨励賞を受賞できた時は、嬉しかったです。しかし、中学に入り、剣道部と茶道部を兼部するようになってからは、スケジュールや勉強の都合で、通っていた書道教室にもあまり行けず、なかなか上達出来ませんでした。ですが高1から高3まで、週に2時間学校の授業で書道をすることができ、再び書道に没頭できました。

来年からは大学に進学することになるので、そのような環境の変化にも動じずに、さらなる書道の上達に励み、書道を自分の一生の取り柄としたいです。

## <大賞>

□高知県・田野町立田野小学校6年 高松 和央

### 「のびのびとね」両親に送り出されて書塾通い6年

小学校入学直前の春休みから週に3日、書塾に通ってきました。両親に作品を見せるとほめてくれ、毎回「のびのびと書いておいでよ」と送り出してくれます。

それでも一生懸命書いても字が曲がったり、鉛筆の芯が折れたりして上手く書けず、涙が出ることもありました。でも、何事も楽しんでやるのが自分のモットーなので、いろいろなコンクールに向けて、締め切りのぎりぎりまで納得のいく作品を仕上げようと、熱心な先生に教えてもらいながら取り組んできました。上級生になって気付いたことですが、硬筆や毛筆を書いていると、心が落ち着きます。そんな時間を過ごすのが好きです。

# 新硬筆検定添削指導コースが人気

現在、募集休止中の通信課程の代わりに、遠隔地の個人が新硬筆を学ぶ手段として、添削指導コースを始めました。検定受験の前に添削指導を受けてから検定にチャレンジするもので、2か月に2課題を添削、検定受験します。ペースはゆったりしていますが、着実に力を蓄える方法として好評です。



会員制で受講料は、入会金 2160 円、会費月 1620 円(税込)、それと初回教材費は普通コースの場合 1912 円(えんぴつ・ペン文字練習帳 1 冊 616 円ほか)、幼児・ビギナーコースの場合は幼児セット 2322 円(はじめてのえんぴつれんしゅうちょう 1 冊 1026 円ほか)。スタートプレゼントとして、硬筆マット、ソフトグリップ、シャプナー、消しゴム、鉛筆 1 本がもらえます。会費には検定受験料、通信費が含まれます。

ワンクール(期間)が2か月で、月1課題を検定受験する計算になります。学び方など詳しいことは書文協にお問い合わせください。

## 2月の中野日曜講習会は10日

書文協では、毎月おおむね第2日曜日に中野ゼロホール(中野区立もみじ山文化センター)で講習会を開いています。遠隔地であったり、学校や仕事の都合で通常の専修学院各コマに通い難い方のために開いており、成人の方も多く見えています。

定員制をとっており、事前に在籍を届けておく必要がありますが、空きがある場合は参加することができます。

ご希望の方は書文協本部事務局にお問い合わせください。



# 東・西・南・北

大阪教育大書道専攻4年、阿部 智恵（麗鳳書院生、大阪府藤井寺市）

## 学び続ける姿勢を忘れない

5歳の頃から書道を始め、中学生の頃から文字を書くことが楽しい、書道はおもしろいと感じるようになりました。高校生で師範資格を取得し、通っている書道教室で講師としてお手伝いをさせて頂くようになりました。書道を通して子どもたちの成長を感じることができ、とてもやりがいを感じました。また、生徒に誠心誠意向き合う寺本麗鳳先生に憧れ、私も将来書道の先生になりたいと強く思うようになり大阪教育大学に進学し、書道を専攻しました。

大学で学ぶ書道は全然違いました。これまで1度も書いたことのない書体や全く知らなかった知識。授業についていくのに必死でした。また、3回生の時には学科代表を務めました。毎週のように出る課題と学科活動の両立。時間に追われる日々に、いつのまにか作品の出来栄えよりも提出期限を守ることばかりに気をとられるようになりました。そんな中いつも通り、書道教室のお手伝いに行きました。コンクールに向けて1つの作品を仕上げようと必死に努力している後輩たち、細かいところまで熱心に指導されている先生。私はその姿に感銘を受けました。後輩たちには負けていけない、私も頑張らなくては！と刺激を受けました。それと同時に、自分が指導する立場にたっても学ぶことはたくさんあるのだということを実感しました。

私は4月から大阪府の私立高校で書道の教員として働きます。教員という指導する立場にたっても学び続ける謙虚な姿勢を忘れずに、教員として、1人の人間として成長していきたいです。

**編集後記** 家中が阪神タイガースファンと聞いていましたが、本当でした。家のパソコンや携帯アドレスにも、トラやタイガースの文字。智恵さんは、まさに“大阪の女子”なのですね。それも“大阪の書道女子”です。

5歳から筆を握り、書塾「麗鳳書院」の先生に憧れて書道の先生になりたいと大教大へ。書道専攻学生全員加盟の会の代表も務めました。セミナー、合宿、コンクール開催運営と忙しいポストです。加えて、書塾の講師として、後輩たちを指導。書道漬けのこれまででした。感心したのは、智恵さんがこの日々の中で「教学半」（教えることで自分も伸びる）の精神を体得したことです。一層の活躍を期待しています。



写真は  
大教大の  
ナビページから